

# Eureka V

六年制通信 No.29

平成30年1月12日(金)号

## はじまりは憧れから

夏休みや冬休みの楽しみの一つに NHK ラジオの「こども科学電話相談」があります。あれは面白いなあ。子供の素朴な質問に対し、それぞれの専門家たちが専門用語を使わずに(使えずに、ですね)何とか理解させようと悪戦苦闘するさまが好きです。

Aちゃん：サルから人間が進化したのは本当ですか。

先生：う～ん。じゃあ、Aちゃんはサルと犬とどっちに似てると思う？

Aちゃん：犬です。

先生：えっ？ そうかあ、Aちゃんはワンちゃんに似てるのかあ、そうかあ…。

これは傑作でしたね。あのとき私は確か運転中でしたが、大爆笑しましたよ。先生はこのあとしばらく沈黙していましたね。

B君：星に願い事をするとうえられるって本当ですか。

先生：はい、本当です。

これには、子供に嘘を教えていいのかと抗議が来たそうです。でも、私も「きっと叶います」と答えそうな気がします。この程度のことに抗議をする大人というのは嫌いだな。いったいどういう神経をしているのでしょうか。

中には非常に感心する説明がありますね。あれは6歳くらいの男の子の質問でしたか、3歳の妹が自分の真似ばかりしてくる、別にイヤじゃないけどどうして同じことをしたがるのですか、というのがあって、先生の答えがよかったな。妹さんはお兄ちゃんに憧れているんだ、だからお兄ちゃんのすることをよく見て同じことをしようとするんだよと説明されていました。そのお兄ちゃんはちょっと意外そうな、でも嬉しそうな声で「そうなんだ」と言っていました、なかなかいい解答だと思いませんか。その先生は、お兄ちゃんに憧れて、自分も同じことができるんじゃないかと妹さんは思っているとも言いました。妹さんには大人の真似はできない。うんと離れている人の真似はできないからね。しかし少し年上のお兄ちゃんなら真似できる。妹さんはそう思っているというのです。これはなかなか示唆に富んだ話です。真似をするというのは「まねぶ」すなわち「まなぶ(学ぶ)」に通じることなのです。その動機が「憧れ」だというわけです。ちなみに我が愛用の明解国語辞典(第三版)で「憧れる」を引くと「現状から脱出して、早く理想の・状態になりたい(土地に行きたい)と強く望む」と書いてあります。ロンドンやパリに憧れるといった、その場所へ行きたいという意味の憧れや、異性への憧れを除けば、「憧れる」とは、そこに自分の理想を見出して、しかも現状がその理想と違うことが認識できて、だから現状から脱出したいと強く望

むということでしょう。確かに3歳の幼児には、他に憧れる人はなかなか見つからないでしょうから、年上のお兄ちゃんは適任ですね。

これが君たちのような青年期に入ってくると「憧れの人物」というのはずいぶんと変わってくるものです。身近な大人でなくても歴史上でもいいわけですから、どこかに必ず自分の理想像を体現している人がいるだろうと思います。見つけられるといいですね。

ただ、憧れるといっても辞書の意味通りに使っていない場合もありますね。私が将棋の羽生さん（国民栄誉賞おめでとう！）に憧れると言っても、彼のようにになりたいから現状を脱出しなければいけないと思って言っているわけではないですね。こういうのは正しくはファンです。私は羽生さんのファンだ、でいいわけですね。例えば高校生でイチローに憧れて、（結構イチローの真似をしたりしながら）野球に取り組んでいる人は彼に憧れているのでしょう。私はイチローの真似をすることすらできないのでイチローのファンというわけですね。

精神的な意味での憧れというのもありますね。例えば、将来君たちも職場の上司でテキパキと仕事ができ、逆境にも強くてやさしくて、判断力に優れていて…、といった人と出会い、これぞ自分に理想だ、自分もああなりたいと強く憧れるかもしれません。しかし、こういうのはどうすれば、その理想に近づけるのかわかりにくいですよ。昨年から一気に有名になった将棋の藤井四段が羽生さんに憧れるといった場合は、彼の努力の道筋ははっきりしているように思います。しかし優れた判断力を持つ大人を理想として憧れたような場合、これは、だから何をすればいいのかをすぐには理解できませんね。姿かたちだけなら簡単なのですがね。私はアームチェアにゆった

りと腰かけてパイプを<sup>くゆ</sup>焼らしながら読書をされる恩師の姿に憧れましたが、似合うかどうかを別にすればすぐにでも真似できますよね。

しかし、憧れる対象が精神的な強さとか見識とかになると真似のしようもなくなってしまいます。途方に暮れるのです。私にもこうした経験は多々あります。おそらく、こういう場合は、その人の精神史をたどるしかないのではないか思うのですが、直接話を聞ける距離にいる人にならともかく、もはや警戒に接する機会も得られない人を理想とした場合は、その人の書いた本を読むしかありません。多くの場合、そこにはその人自身が影響を受けたとみられる本も紹介されていますから、それも読むしかないでしょうね。むろんその人の伝記が出ているのなら読むことです。困るのは、その人が、若い人には大局を誤らないように古典を読んでほしい、などと言っている場合です。これ私が実際に先生から聞いた話です。古典と言われましても…。あまりにも多すぎて、またまた途方に暮れることになりますね。でも、まあ、理想に追いつかなくても、理想とする人の方向へ自分が歩いているという風に思えたら、それでいいかとも思います。そんな人に、君たちも出会ってほしいと思います。

若い君たちは、これから理想とする人物像を求めて、それに憧れて下さい。ただし、あまりにかけ離れた人物に憧れると、それはただのファンですからご注意ください。